

長洲小だより 第11号

発行 長洲町立長洲小学校
長洲町長洲1776番地
Tel. 0968(78)0109 fax (78)7103



令和4年10月14日(金)

早いもので10月も半分が過ぎました。学校では後期がスタートしましたが、子供達にとっては楽しみにしている行事が多いからでしょうか、何となく活気が感じられます。「○○の秋」ということで、多くの場面でモチベーションも高くなってきているのだと思います。学習面、生活面共に大きな成長が期待できる時期ですから、計画的に過ぎし確実な成果を上げて欲しいものです。何か一つテーマを絞って取り組んでもいいかもしれませんね。集中して取り組めば成果が上がると思います。有意義な「秋」をお楽しみくださいませ。

金魚すくい体験(4年生)

9月22日(木)、4年生が金魚すくい体験をしました。毎年、長洲町金魚組合のご協力を得て実施されています。金魚組合の方からは、金魚の養殖やその歴史についてお話し頂き、子供達も興味津々でお話を聞くことができました。

そして、金魚すくい体験! ポイをもらっていき開始! 子供達の嬉々とした表情に、周りの大人も自然と笑顔になっていました。中には8匹、9匹と、次々とすくっていく子供達もいました。

体験後には金魚やメダカのプレゼントもあり、子供達は大喜びでした。どうしたらうまく育てられるか、新しい学びができそうです。



第1回縦割り班活動

9月30日(金)、第1回の縦割り班活動が実施されました。1年生から6年生までの子供達が一つのグループを作って、今後様々な活動を展開していきます。第1回目を今回は、これからの活動を計画することでした。6年生が中心となって遊びの計画をしたり、掃除の計画をしたりして、今後の見通しを持ったところです。

最近では、地域の中で上級生が下級生の面倒を見るといふことが少なくなってきました。縦割り班活動を通して、思いやりは優しさを学んでほしいものです。

コラム「見えないものへの感謝」

最近、改めて感謝の気持ちを持つことの大切さを痛感しています。

朝から落ち葉がきれいに掃かれています。朝からお茶の準備がしてあります。

トイレのスリッパがきちんと並べてあります。そういえば、トイレトペーパーがいつの間にか新しくなっていました。トイレはいつもきれいに保たれています。

お客様が来ると、誰かがお茶を入れてくれて、いつの間にか給食の準備がしてあります。もう食べるだけ。電気の付けっ放しを誰かが消してくれました。節電です。

誰かが毎日学校の戸締りをしてくれます。いつの間にか、ゴミがきちんと捨ててありました。幾つかの日々の気付きを書き出してみました。すべて、誰かがやってくれています。感謝の気持ちで一杯です。誰かがやってくれているほんの少しの気遣いが、私達の生活を支えているのだと思います。このような見えない何かに対して、気付かない人はずっと気付きません。だから感謝の気持ちも生まれません。そして、このような、見えない誰かの支えに感謝の気持ちを持つことができなければ、世の中は殺伐としたものになるでしょう。ほんの少し周りを見つめることで、見えない誰かの支えに気付く、感謝の気持ちを持つことができます。

第2回小中連携あいさつ運動

9月29日(木)、第2回小中連携あいさつ運動が実施されました。長洲小学校出身の長洲中学校の生徒さん達に長洲小学校に来ていただき、小学生と合同であいさつ運動を展開しました。

低学年の小学生は登校後に自然発生的に門に集まり、あいさつ運動を一緒に行っていました。

あいさつを明るく元気にするだけで、不思議と人との距離は近くなります。このような学びは学校だけでなく、長洲町全体に広がっていきたいものです。その担い手が、正に小学生、中学生の皆さんです。



フェリーを見に行きました

10月3日(月)、1年生が校外学習で長洲港にフェリーを見に行きました。大きなフェリーからたくさんの方が降りてきたり、たくさんの方が乗り込んだりする様子におっかなびっくりの様子でした。そして、フェリーの絵を描いている子供達は私に見せに来てくれて、「浮き輪が積んでありました。」とか「船の上にくるくる回るものがついていました。」とか、多くの気付きを伝えてくれました。

フェリーの出港に合わせて、みんなが「行ってらっしゃい！」船から船員さんが手を振って応じてくれました。

日差しはまだ強いのですが、好奇心旺盛な子供達と初秋の青空の下、楽しい時間を過ごしました。

かけ算九九の話

筆者は小学生の頃、泣きながら覚えた「かけ算九九」ですが、教育現場でお仕事をするようになり、不思議なことが起こっていることに気がきました。

「かけ算九九」は2年生で学習するのですが、それにもかかわらず、5・6年生で「かけ算九九」を唱えさせると、何とあやふやな子供がいるのです、実は…。

加減乗除の計算スキルは、間違はなく大人になっても使います。特にかけ算九九は重要です。他教科でも使う場面がありますし、勉強のスキルというよりは生活スキルとして身に付けておく必要があると思います。

そこで、保護者の皆様、地域の皆様にお願いです。かけ算九九の学習は2年生で実施されますが、かけ算九九の定着のためにご家庭や地域でも、子供達に唱えさせて頂けませんでしょうか。特に学習直後から義務教育の期間は、定期的に家族の中で話題にして頂きますと定着も早いです。後で、しまったとなる前には是非とも願います。経験に基づくものですので、筆者も危機感を持つてのお願いとなっています。

給食の気付き「お茶碗と箸の持ち方」

筆者世代は、小学校に入學する前からお茶碗と箸の持ち方については、かなり厳しく躡けられたのではないかと思います。如何でしょうか。筆者は両親だけでなく、親戚一同からかなりのスパルタで教えられました。おかげで、何となくきちんと使えているかなと思うのですが…。

ある日の給食時間、子供達のお茶碗とお箸の持ち方に愕然としています。お箸の使い方は、人差し指と中指の使い方が悪いですね。親指、人差し指、中指が連携して始めて、箸の機能が發揮できるのですが、子供達の中にはフォークのように使っている人もいます。また、お茶碗の持ち方ですが、私は人差し指、中指、薬指、小指がお茶碗を支え、親指でお茶碗の縁を固定し、安定させるという持ち方ですが、最近の子供達の中には、人差し指をお茶碗の縁にかけて、親指、中指、薬指、小指でお茶碗の下を支えるという、アクロバティックな持ち方をする人がいます。

食に関する文化が変わってきていることは感じているところですが、それにしても、少々心配になった場面でした。

